

明けない夜はない

令和4年という新年と3学期という新学期を迎えました。年末・年始から新型コロナウイルスの新しい変異株の影響もあり、全国で想像を超える勢いで新規感染者数が増加し、憂慮する状況となっています。始業式も2学期と同様に、体育館に集まらずに、リモートで行いました。予断を許さない状況は続きますが、充実した3学期となるよう、教職員一同努めてまいりますので、保護者・地域の皆様には引き続き、ご理解・ご協力を宜しくお願い申し上げます。さて、令和4年の始まりにあたり、始業式で生徒にお話した内容をお知らせします。

日本航空高校バレーボール部が逆転に次ぐ逆転で、耐えに耐えて春の高校バレーで、悲願の日本一になったと明るいニュースがありました。昨年の夏、学校内の大規模クラスターにより、インターハイ県予選に出場できず、全国の舞台を踏むことなく、絶望の淵にあった選手たちがいました。しかし、春の高校バレーで活躍することを信じ、厳しい練習や感染対策等に取り組んできました。今大会でもフルセットの激戦を何度も制し、全国の強豪を次々と逆転で下し、決勝に進出しました。決勝でもインターハイチャンピオンの鎮西高校（熊本）に2セット先取されながら、大逆転の初優勝を果たしました。平均身長180cmという大会出場チームの中でも小さいチームは、全員バレーで逆境を突破し、粘り強く、決してあきらめることなく一つ一つのプレーに全力を尽くし、快挙を達成しました。私は、アウトサイドヒッターとして優勝に貢献した小林柊司（とうじ）選手を縁あって、彼が中学校のときに指導してきました。彼の兄であり、日本航空高校でキャプテンとして活躍した桜太（おうた）さんが数島中のときに、私がバレーボール部の顧問を務めていたことから、2人のいるチームを顧問として、その後は外部指導として指導してきました。柊司選手はバレーボールが大好きで、高校入学後も、苦しい練習のときも前向きに、笑顔やチームメートへの声掛けを忘れずに、練習に取り組んでいました。バレーボール選手としては決して大きい選手ではありませんが、今回の大活躍は、素晴らしい仲間とともに、ひたむきに努力を続けてきた成果だと思います。一昨日、柊司選手から日本一になった報告の電話と彼のお母さんからはお礼のメールをいただきました。



「明けない夜はない」・・・航空高校の試合を見ながら私が感じたことです。校内のクラスターによって大切な舞台を奪われた選手たちでしたが、絶望の淵からもう一度、最後の大会に賭ける想いを大切に、努力を続けてきたからこそ、今回の優勝につながったものと思います。今大会でもあきらめてしまいそうな、追い込まれている状況が数多くありましたが、仲間がつかないボールをコートの外まで追いかけて、何度も必死に繋いでいき、粘り強く戦う姿に、たくさんの勇気をもらいました。「明けない夜はない」、それは「どんなつらいことも、必ずいつか終わる」という意味の言葉です。明けない夜はありません。どんなに真っ暗の闇であっても、いずれ夜が明けます。明るい日差しが差し込み、世界が一変するときがきます。航空高校の選手たちのように、そのときを信じて、私たちもできることをお互いに実践していきましょう。新しい年もみなさんには自分の夢や希望を大切にして、自分を支えてくれる人を大切にしながら、頑張ってもらいたいと思っています。

もうひとつ話をしたいと思います。「木を見て森を見ず」という言葉があります。「目の前のことだけにとらわれてしまい、大切な全体が見えなくなってしまうこと」を示す言葉です。3年生は、受験、入試・・・と大変な時期をこれから迎えます。差し詰め、3年生で言えば、“進学して自分は何がしたいか”、“何のために勉強するのか”、“自分の夢や希望の実現のためにどうしたいのか”などを考えることでしょうか。このように、新年の抱負や卒業や進級に向けての目標を、全校生徒の皆さんには、この機会に確認してもらいたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の拡大はまだまだ続いていくように思います。目の前の新型コロナウイルス感染症対策、交通事故やけがなど、目の前のことにも注意を払う必要があります。「木を見て森を見ず」ばかりでも困ることがあります。学習では毎日の1時間、1時間の授業を大切にしていくこと、家庭での学習も毎日の積み重ねが大切と思って続けていくようにしてほしいと思います。また、友達との人間関係、部活動のこと、日常生活の何気ないことでも、その時、その時を大切にしていってほしいと願っています。なぜなら、この一瞬、一瞬の積み重ねが、みなさん一人ひとりの未来につながっていきます。2学期の終業式でも話したように『自分の未来は自分しかつけない』と私は思います。みなさんには、この相反するようなこの2つのことにバランスよく取り組み、素晴らしい年、素晴らしい3学期にしてほしいと思います。(3学期始業式にて)

<各学年代表生徒より>

3学期は、1年生のまとめではなく、2年生の準備の学期として、今までよりも自分の行動に責任を持ち、自分だけでなく、誰かのためにも行動できるようにしたいです。また学年会長として、学年全員の声をしっかりと聞き、改善していきたいと思います。そして、来年度新1年生が入学してきたときに、後輩のお手本となれるような先輩としての姿を意識した生活を送りたいと思います。(1年3組 太田和花さん)

私が3学期に頑張りたいことが2つあります。一つ目は学習です。国語のテストに作文が含まれると聞き、国語の学習に力を入れていきたいと思います。来年度は受験生にもなるので学年としても学力アップに取り組んでいきたいです。二つ目は学年合唱です。私たち赤学年は中学生になって初めて学年合唱を歌うことができます。曲名は「大地の歌」です。私はテノールパートを担当します。合唱をする機会は少ないと思いますが、しっかりと練習して赤学年のパワーある合唱を歌いたいです。(2年3組 サルセド・ジャンポールさん)

3学期は私たち3年生にとってとても大事な学期になります。卒業まで残り2ヶ月ほどありますが、クラスや学年で、悔いのないように取り組んでいきたいです。まずは、3年生全員が切磋琢磨しあいながら、モチベーションをあげ、全員合格の目標を掲げ頑張っていきたいと思います。毎日受験への不安を感じながらの日々ですが、最終的には自信を持って受けられるようにしていきたいと思います。最後は、みんな笑顔でこの玉幡中学校を巣立ち、新しい環境で全員が明るく前に進んでいけるように準備をしていきたいです。(3年3組 藤巻利一さん)

12月終わりに生徒会のメンバーが決定しました。これから活動していく上で、今までにでた課題を改善していくことや生徒の意見を取り入れ、活用していくことを大切にしていきたいと思います。今後、力を入れていきたい活動は「あいさつ活動」です。玉幡中のよいところであるあいさつが、これからも当たり前に行えるよう力を入れたいと私は考えています。あいさつ活動だけでなくその他たくさんのお話を前生徒会本部から受け継いだので、それを絶やすことなく、さらに発展させていくためにも生徒会本部役員全員で協力し、全校のみなさんに積極的に参加してもらえるようにしたいです。また私個人としても生徒会長という自覚と責任を持ち、3年生になるという意識を高めて3学期を過ごしたいと思います。(2年1組 勝村陽葉さん)

経験を引き継ぐ、想いを引き継ぐ

岡村歩会長から勝村陽葉会長へ、バトンは渡されました。12月23日(木)の終業式後に、生徒会役員の新命と引き継ぎ式を行いました。1年間会長という立場を背負い続けてきた歩さんをはじめとする生徒会役員のみなさんは、大きく成長をとげ、責任感をもって、一生懸命に取り組んでくれました。3年生中心の生徒会役員のみなさんは、コロナと闘いながら、全校のために、学校のためにと尽力してくれました。その想いは必ずや勝村会長をはじめとする生徒会役員のみなさんに引き継がれるものと思います。

さらに素晴らしい玉幡中にしていくために、全校で頑張りましょう！

